

姫路のくさり

くさりの歴史

進んだ技術が、韓国から来て、今から約2200年前から鉄が作られていた。そして、約100年前、姫路で生まれた、せ川と言う人が、大阪でくさり工場を作りました。そのくさが、大変人気があり、ものすごい注文が来たので、大阪工場だけでは作りきれないので、姫路工場を造(つく)った。

全国一のくさり

姫路のくさは、3万860トン平成11年およそ70%、徳川中期、(とくがわちゅうき)松原(まつばら)くぎとよばれる、くぎのちゅうぞうぎじゅつが発達(はったつ)しており、めいじちゅうきには船くぎのせいぞうにかわり、大正5年、大阪からたんぞうによるくさりの製法(せいほう)が導入(どうにゅう)されたことが、始まりとされています。

くさりのありみは かにひめじのくさり

- ① 進んだきじゅつが、かん国から来た。
- ② 2200年前から、鉄が作られていた。
- ③ 今から約、100年前、ひめじで生まれた、せ川さんが大阪で工場を作りました。
- ④ そのくさが大変、人気があり、ものすごい数の注文が来た。それで、大阪だけでは、間に合わなくなった。
- ⑤ それなので、ひめじ工場をつくった。

主にどう使われているか

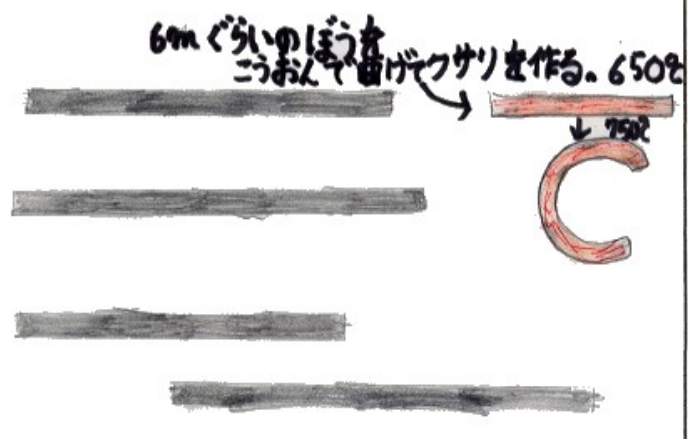


主にどう使われているか

・船 ・遊具 (ブランコなど)
・さく ・魚をとるあみ・物をつる
運ぶ ・いかり ・バイクのチェーン
などに使われています。

どんな原料で作っているか

近くの工場で6~7メートルの丸いぼうを買って作る。



くさりの部品 ↑

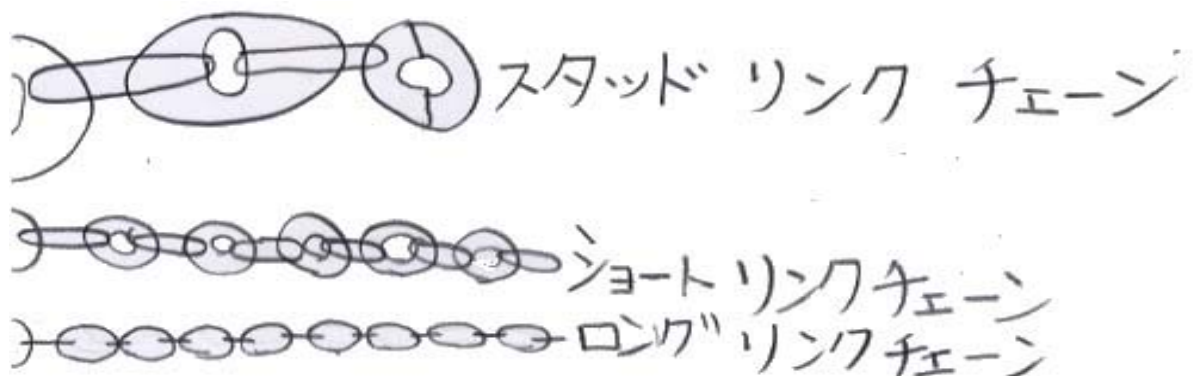
どこに売り出されているか

今は日本じゅうだけで売られていたが、昔は海外でも売り出されていた。(・イギリス・ロンドン・ディスカバリーなど。)

くさりの種類はどれだけあるか

姫路は主にリンクチェーンを作っていて、種類が何個かあり、・スタッドリンクチェーン・ショートリンクチェーン・ロングリンクチェーンの3種類が姫路で作っている。

くさりの種類
→



これが姫路のくさり

これがくさりの1個分
です。
↓



アンカーチェーンせいぞう法

←くさりの作り方

1. チェーン用丸ぼうをきめられた長さ
に切る
2. 材料を650~750℃にねつをくわえる。
3. 一回目にJの形、二回目にCに曲げる
4. 木幾木戒で、金ぞくのつなぎ目をねつで
とかしてつなぐこと
5. 金ぞくのつなぎ目をねつで、とかしてつ
なぐ時に、出たよけいな部分をけずる
6. だるだるにした鉄をかたにながしこみ、
最後の仕上げに形を整える。

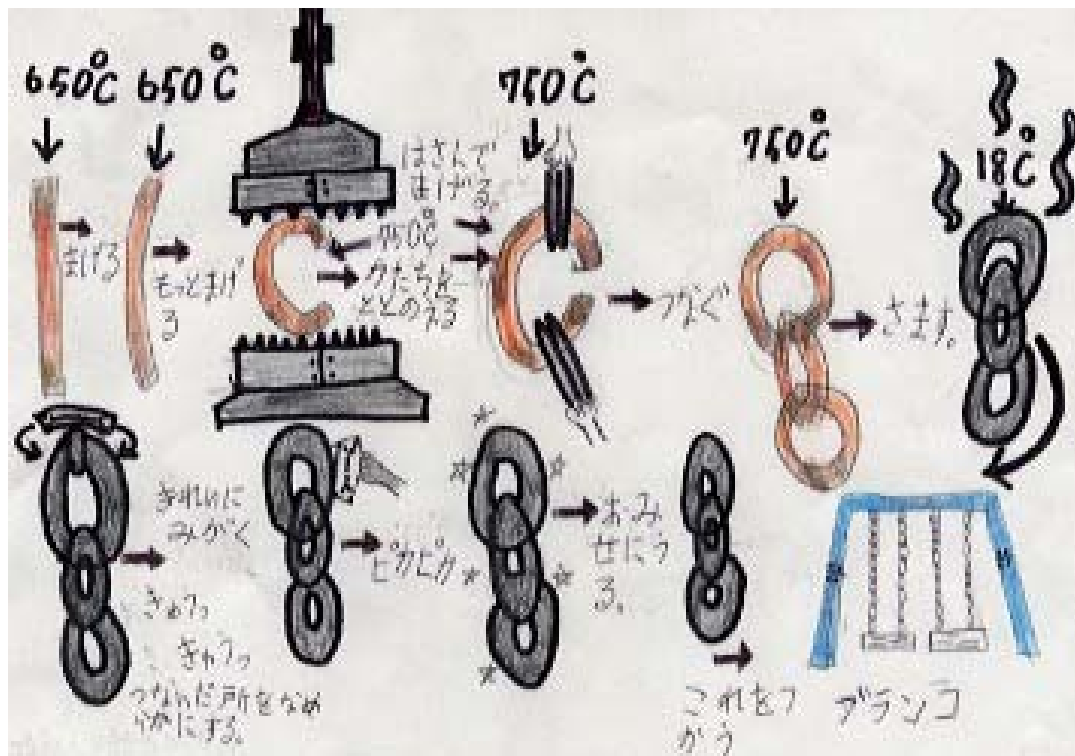


←これは材料を^{ジェイ}J型に曲げている所です。



これは材料を650℃～750℃に加熱し終わった所です。→

^{かねつ}加熱(意味、熱を加えること。)



←くさりの作る手順

一番左の人がこのくさりの工場の社長の衣川(きぬがわ)さんです。→



感想

今までは、くさりの事など全然気にしてなかったけど、この勉強をしているんな事が、わかりました。姫路のくさが、全国一なのが一番おどろきました。また、この勉強をしてみたいです。(T. M)

ぼくはこの勉強をして、とてもくさりのことがくわしく分かりました。どんな原料で作っているかは、近くの工場で6～7メートルの丸いぼうを買って作るのや、姫路で作られているくさはリンクチェーンなどいろいろなことを教えてくれて本当によかったです。またこんなのをやりたいです。(H. M)

ぼくは、このクサリ見学をして、とてもいい勉強になりました。学校でまとめると、このクサリのなぞが、分かりました。ぼくが調べて、おどろいたのは、クサリの種類がいろいろあるのが、おどろきました。(K. K)

ぼくはこのくさりの勉強をして、どこで使われているかとか、どうやって作っているかが分かりました。くさはぼくたちの生活にはほとんどみないけど、港などに行けばたくさんくさが使われているのが、分かりました。(N. N)